

23 Jun. 2011



第40号

JAAGA だより

日米エアフォース友好協会
Japan-America Air Force Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会

〒162-0842 東京都新宿区市谷
砂土原町 1-2-34 KSKビル3F

編集：J A A G A 事務局

印刷：財団法人 防衛弘済会

ホームページ：http://www.jaaga.jp

平成23年度 JAAGA 総会開催



JAAGA President Tsumagari, delivering an opening address.

平成23年度総会が、4月20日（水）、グランドヒル市ヶ谷において14時から約1時間半にわたり開催された。正会員総数239名の内、出席者56名、委任状提出者154名であり、会則の規定により総会は成立し、審議等が進められた。

冒頭、この度の東日本大震災で亡くなられた方々と故谷之夫氏のご冥福を祈り黙祷を捧げた後、会長挨拶、議案審議、新役員の紹介、新顧問等の委嘱、退任者の紹介の順で実施された。

津曲会長からは、「会長を拝命して1年が経過し、2年目に入ろうとしております。引き続き宜しくお願い申し上げます。本日は、22年度のJAAGAの主要な活動のうち、二つを皆様にご紹介して挨拶に代えたいと思います。

一つ目は、日米隊員の表彰についてです。沖縄地区是那覇基地、関東地区は入間基地、三沢地区是三沢基地において、基地周辺の自衛隊協力団体の方々、米空軍関係上司等、そして基地の主要な幹部を交えて日米隊員の表彰行事を行いました。これは、JAAGAの設立目的である『航空自衛隊と米空軍の相互理解及び友好親善の増進に寄与する』ということに尽力し、功績があった日米の隊員を表彰しているものです。那覇基地と入間基地は私が、三沢基地は榎副会長が出向きました。行事は、音楽隊による日米両国歌の演奏に始まり、表彰式、懇親会を実施しましたが、部隊側の支援は完璧であり極めてスムーズに進行し、JAAGA15周年の歳月の重さを感じた次第です。表彰される隊員、そして同伴された奥様共々大いに喜ばれており、また日米の友好親善に貢献したという自信に満ち溢れた姿を見て、非常に意義のある表彰式であると思いました。

二つ目は、昨年の9月に米空軍協会（AFA）年次総会に参加したことについてです。ハワイでは、太平洋空軍司令部、第13空軍司令部を、コロラド・スプリングスでは、宇宙空軍司令部、空軍士官学校を訪問し、ワシントンでは、AFA総会に参加し、ペンタゴンを訪問しました。行く先々で心暖まる歓待、懇切な説明を受け、極めて有意義な交流、研修でありました。

特にワシントン訪問は、エバハート元大将ご夫妻による自宅におけるホーム・パーティに始まり、JAAGA主催の夕食会はエバハート元大将の行きつけの素晴らしいレストランで実施し、マイヤーズ元統参本部議長ご夫妻を始め、ホール元中將、ヘスター元大将ご夫妻、ワスコ元中將ご夫妻、そしてワシントン在住のエバハート元大将ご夫妻、ライト元中將ご夫妻に駆けつけて頂き、和気藹々のうちに時間が経つのを忘れるほど、食事と会話を大いに楽しみ懇親を深めることが出来ました。

これは、参加された方々が在日米軍司令官兼第5空軍司令官としての在職時における仕事の充実ぶりに対して、自信を持っておられる証左であり、奥様も含め日本滞在時の楽しい思い出が沢山あったからこそ、大いに喜んで頂けたものと推察いたします。これもひとえに、それぞれの司令官が日本における勤務時にカウンターパートであった空自の諸先輩の皆様が奥様も含め、一生懸命に米軍とお付き合いし



A General Meeting, 56 JAAGA members gathered and discussed bills.

て頂いた結果、日米親善、友好の輪が広がった証であると思います。このことに対して改めて深甚なる敬意と謝意を表したいと思います。

夕食会に参加するに当たり、ホール元中將はフロリダから飛行機で、ヘスター元大將ご夫妻は、テキサスのサンアントニオから、ワスコ元中將ご夫妻は、ノース・キャロライナから車を6時間も運転するなどして遠方から駆けつけて頂いた次第であり、本当に懐かしい友人と旧交を温めることが出来、極めて印象的でありました。以上の二点を皆様にご紹介して私の挨拶といたします」との挨拶があった。

議案審議では、平成22年度業務は、東日本大震災の影響を受け、米軍三沢基地等研修及び SPORTEX'10-B を中止した他、ほぼ計画通りの実施であったこと、平成23年度業務計画は、東日本大震災の状況に鑑み、JAAGA 15周年記念行事を取り止めること等の説明があった。

質疑応答では、米空軍軍人やその家族の日本文化研修の機会の充実、正会員による米空軍基地研修の拡充、外務省との関係構築、防大留学生や在日米交換幹部との交流拡大等について貴重な意見があり、今後の活動の参考としていくことになった。

役員を選任では、吉田正新副会長を始め新役員がそれぞれ承認された。その後、各新役員の紹介、今回で退任される小田邦博副会長、石黒正昭理事、井上勝理事の紹介及びそのご貢献への感謝、そして、外薗健一朗新顧問への委嘱をもって総会は閉会となった。なお、JAAGA 15周年記念行事が取り止めとなったことから、同行事の一環として実施することとされていた講演会は行わないこととなり、懇親会は、今後状況を見ながら「意思の疎通を図る会」という主旨で別途計画することとなった。(第1号議案から第5号議案の詳細は12頁から17頁のとおり。)

(山本康正理事記)

JAAGA から礼状送付

—東日本大震災に対する米軍の活動に対し感謝の意—



Gen. Oriki, Chief of Staff, JSDF, (left) visited Yokota and was provided an overview of Joint Support Force headquarters operations by Lt. Gen. Field, Commander, Fifth Air Force, (right) on April 2.



Members of the 320th Special Tactics Squadron shovel mud and silt off the main apron at Sendai Airport on March 16.



A loadmaster guides a JGSDF member as he backs a truck full of supplies onto a C-17 at Kadena on March 17.



Ten pallets of water, food and blankets to Sendai are loaded onto C-17 at Yokota on March 20.

(photos: provided by 5th Air Force's Homepage)

平成23年3月11日（金）午後2時46分頃、三陸沖で発生したマグニチュード9.0の東日本大震災に対し、米軍は「オペレーション・トモダチ」（トモダチ作戦）の名のもと空母ロナルド・レーガンを始め、多くの兵員、艦船、航空機等を投入し、日本に対す

る支援を実施した。JAAGAは、そのような活動に感謝して第5空軍司令官、三沢、横田、那覇各基地司令に対し津曲会長からの礼状を送付した。

次に、第5空軍司令官への礼状を紹介する。

第5空軍司令官への礼状

3 April 2011

Lieutenant General Burton Field
Commander, Fifth Air Force
United States Air Force

Dear General Field,

Japan is now suffering serious damages on their lives, properties and infrastructures by the great earthquake and tsunami. It is also giving us big scars in our hearts. Lots of people lost their lives, if we luckily see the survivors they've lost their family members and their houses and they are at a lost in what to do. The devastating damage to the atomic power plant is dropping dark shadow to the heart of all of the people around the world worrying about what will come next.

In such a national tragedy, we are encouraged and strongly moved by the lively activities of the United States Forces and Japan Self Defense Forces under the difficult situations. We are very proud of those forces and the tie between two forces. "Operation Tomodachi" is saving us from the bottom of disappointment and disaster.

On behalf of the members of Japan-America Air Force Goodwill Association (JAAGA), I would like to express our appreciation on the great support of your forces and the United States to Japan. As for JAAGA activities, we decided not to have some programs such as SPORTEX10B and Misawa Air Base Tour. In addition to these programs, we cancelled all events of the JAAGA 15th Anniversary. It's a great pity that we will not be able to see you and have your lecture on 7th July.

Please give our best regards to those who are working for Japan and Japanese people.

We are ready to give them any support they may need. We are looking forward to seeing you after Japan find the path for reconstruction with the great support by the U.S. and the U.S. Forces.

Thank you very much again for your great support.

Sincerely,
Yoshimitsu Tsumagari
General, JASDF, Retired
President, JAAGA

日米共同訓練参加隊員を激励



Dir. Orita, JAAGA, hands a gift to Lt. Gen. Kataoka, Commander of Air Defense Command, in Fuchu Air Base.

平成23年1月25日（火）、織田、射場、源理事が航空総隊司令部を訪れ、グアムにおける日米共同訓練参加者に対する激励品と会長のメッセージを片岡

航空総隊司令官に託した。今回の訓練は、展開・撤収を含み1月19日（水）から3月7日（月）の間、第2航空団のF-15×6機、第3航空団のF-2×8機及び警戒航空隊のE-2C×2機が参加して実施された。2月13日（日）から2月25日（金）の間は、アメリカ合衆国グアム島アンダーセン空軍基地及びファラロン・デ・メディニラ空対地射場並びに同周辺空域において、戦闘機戦闘訓練、防空戦闘訓練及び空対地射撃訓練が行われた。米軍からは太平洋空軍及び海軍の航空機が参加した。

片岡司令官から「本共同訓練に対するJAAGAの激励支援には、大変感謝しております」との感謝の意が表せられた。（源理事記）

日米下士官相互部隊研修を支援



Chief Dir. Kagawa, JAAGA, visited Lt. Gen. Field and Chief Master Sgt. Kaiser in Yokota to support JASDF-USAF NCOs exchange program.

平成23年2月16日（水）、香川理事長、山本（隆）、井上、原田各理事が横田基地にフィールド第5空軍司令官を訪問し、平成22年度日米下士官相互部隊研修（空自隊員の受け入れ）への支援品をカイザー第

5空軍先任下士官に手渡した。

本研修は下士官レベルの日米相互の理解及び友好を深めるために平成8年度から開始されたもので、平成22年度の実施状況は下表のとおり。司令官からは「相互研修は現場レベルでの交流に役に立つものであり、参加した隊員からも良い研修だとの報告を受けている。JAAGAからの継続的な支援に感謝します」とのお礼の言葉を頂いた。また、日米隊員のJAAGA表彰、SPORTEX等の活動も話題になり、司令官はいずれの活動にも深い理解を示された。カイザー先任下士官は本年2月小牧基地での米空軍下士官の研修を視察し、参加者と意見交換を行ったとのことである。尚、空自への米空軍下士官の受け入れに対しては、昨年9月に空幕人事教育部長に支援品を手渡した。（原田理事記）

[平成22年度日米下士官相互部隊研修実施状況]

受入基地	期 間	参加人員 (米空軍)	受入基地	期 間	参加人員 (空 自)
那 覇	22. 10. 7～10. 15	7	嘉 手 納	23. 2. 18～ 2. 25	8
松 島	23. 2. 14～ 2. 21	6	横 田	中 止	—
小 牧	23. 2. 16～ 2. 22	8	三 沢	中 止	—

日米隊員表彰

平成23年2月、平成22年度JAAGA日米隊員表彰式が那覇、入間及び三沢の航空自衛隊基地において実施された。本表彰行事は平成10年度に開始されて

以来、今年度で13回目の実施となり、表彰者数は総計89名（航空自衛隊50名、米空軍39名）を数えるまでになった。

受賞者及び功績の概要

区分	所属部隊	受賞者	功績の概要
空自	北部航空警戒管制団 (三沢)	 空曹長 織田和哉	三沢基地准曹会会長として日米交流諸行事を積極的に企画立案し交流促進を図るとともに、日米共同訓練参加隊員への支援及び激励を行うなど日米の友好親善に貢献した。
	第4補給処 (入間)	 空曹長 小林広志	関東地区スペシャル・オリンピックスの運営等にボランティアとして参画するとともに、米軍軍人や家族との交流を通じ、日米の相互理解に貢献した。
	プログラム管理隊 (入間)	 空曹長 前田徳幸	入間基地准曹会会長として諸行事に積極的に参画し、特に入間・横田両基地行事での交流を推進した。また、基地が行う横田基地への研修の調整等に中心的役割を果たし、日米の友好親善に貢献した。
	防空指揮群 (府中)	 准空尉 雲山充明	日米共同運用の場で下士官交流に努めるとともに、防空指揮群准曹士先任として各種交流行事を積極的に企画し、また横田基地の各種行事を支援して日米交流を推進した。
	南西航空混成団 (那覇)	 1等空曹 波木宏将	団司令部訓練班員として各種日米交流プログラムに関する調整等を積極的に実施するとともに、米軍のセミナー等への空自隊員の参加を企画実現するなど日米交流に寄与した。
米軍	三沢国際関係委員会 (三沢基地)	 M.Sgt. Christopher Burch	三沢国際関係委員会委員長として、各種日米交流プログラムを企画推進して活性化を図るとともに、千歳基地との定期交流など空自准曹士隊員との日米交流行事の受入を担当し、日米の友好親善に貢献した。また、多くの基地訪問者に対して米軍に関するブリーフィングを実施し、日米相互理解の促進に寄与した。
	第374空輸航空団 (横田基地)	 M.Sgt. Brian A. Cantrell	第374空輸航空団において、日米交流行事の担当者として空自幹部学校学生との訪問を受け入れるとともに、横田基地での日米下士官交流プログラムに積極的に関与して同プログラムの成功に寄与した。また、週末に府中基地で開催された空自と横田基地の会話交流活動に参加して軍人相互の結びつきの強化に尽力するなど、日米交流の促進に貢献した。
	第18航空団 (嘉手納基地)	 M.Sgt. Jerry Laney	第18航空団キャリア・アシスタント・アドバイザー及び特技進展プログラム担当者として航空自衛隊に派遣される米空軍兵士の準備教育を適切に行うとともに、空自曹士の米軍セミナーへの受け入れに尽力した。また、空自幹部と米空軍将校の相互語学研修プログラムを確立させるなど、日米交流の促進に貢献した。

— 沖縄地区表彰式 —



JAAGA Award ceremony in Naha Air Base. 29 people, including Lt. Gen. Hirata, Maj. Gen. Yamada and Col. Constantine, attended the ceremony.

平成23年2月4日（金）、平成22年度沖縄地区JAAGA表彰行事が空自那覇基地において実施された。

表彰式及び懇親祝賀会は、那覇基地隊員クラブのブルー・コーラルにおいて開催された。空自からは南西航空混成団司令の平田英俊空将、第83航空隊司令兼那覇基地司令の山田真史空将補以下12名、米空軍からは第18任務支援群司令ラフティール・コンスタンティーン大佐以下8名、那覇基地協力者として沖縄県防衛協会青年部会長の根路銘敦氏、那覇基地協力会副会長の伊差川義男氏他2名、そしてJAAGAからは津曲会長、石津沖縄支部長以下5名が出席し、総勢29名の参加者を得て実施された。

表彰式は、安藤義隆3等空尉以下21名の南西航空

音楽隊による日米国歌の演奏から始まった。津曲会長はJAAGA活動の意義、創設以来15年に亘る支援への感謝、そして表彰行事に係る多くの関係者、特に那覇基地による積極的な協力、支援に対するお礼を述べた後、受賞者に表彰状を、奥様には記念楯をそれぞれ授与し、受賞者ご夫妻の功績を祝福した。その後、コンスタンティーン大佐と山田空将補から祝辞があり、受賞者へのお祝いの言葉とと

もに、日米両国の友好親善及び空自と米空軍との間の信頼関係促進の重要性等について述べられた。

表彰式後の懇親祝賀会においては、まず那覇基地太鼓部による迫力ある和太鼓演奏が披露された後、益々の日米友好親善を祈念しての「鏡割り」が行われ、沖縄県防衛協会青年部会長の根路銘敦氏からの祝辞と乾杯があり、和気藹々の祝賀会となった。受賞者からも挨拶があり、日米の相互交流がそれぞれの部隊にとっても大きな刺激となって極めて有益であり、周囲の人々の支えによって業務ができたこと、特に奥様への感謝を強く述べられたのが印象的であった。

（小川理事記）

— 関東地区表彰式 —



JAAGA Award ceremony in Iruma Air Base. 36 people, including Maj. Gen. Yoshikawa, Maj. Gen. Kokubu and Col. Mardis, attended the ceremony.

平成23年2月10日（木）、平成22年度関東地区JAAGA表彰行事が空自入間基地において実施された。

表彰式は入間インにおいて、懇親祝賀会は第2厚生センターにおいて開催された。空自からは第4補給処長の吉川礼史空将補、中部航空警戒管制団司令兼入間基地司令の國分雅弘空将補以下18名、米空軍からは第374整備群司令のクリストファー・マーティス大佐以下10名、

入間基地周辺協力者として、入間航友会副会長の荻野喜美雄氏、入間基地青年同友会会長の荒幡雅一氏、入間基地退職者雇用協議会会長の豊田義継氏の3名、

そしてJAAGAからは津曲会長以下5名が出席し、総勢36名の参加者を得て実施された。

表彰式は、真下宏造1尉以下6名の入間基地軽音楽部“ZOOT36J”による日米国歌の演奏から始まった。津曲会長は挨拶において、JAAGA活動の意義、創設以来15年に亘るJAAGA支援への感謝、そして表彰行事に係る多くの関係者、特に入間基地による積極的な協力、支援に対するお礼を述べた後、日米四人の受賞者と奥様にそれぞれ表彰状と記念楯を授与され、その功績を賞賛した。クリストファー・マーティス大佐からは、JAAGAに対するお礼の言葉とともに、「日米相互が尊重し合うことが大切であるが、日米下士官が支え合って良くやっており、受賞者はその役割を良く果たしている」との祝辞があった。また、國分空将補からは、受賞者への祝意

を表されるとともに、「周辺情勢が厳しい中、日米安保は次の50年に向けて踏み出しており、一層の信頼を築いていくことが益々重要」との祝辞があった。

表彰式後の懇親祝賀会においては、まず入間航友会副会長の荻野喜美雄氏から祝辞を頂くとともに、乾杯の音頭をとって頂いた。その後4人の受賞者からは、異口同音に日米交流の重要性と交流に関われたことの喜び、そして支援してくれる周囲の人々への感謝が述べられるとともに、「今後とも、それぞれの立場に応じた日米交流活動を積極的に継続したい」との挨拶があった。最後に戸田JAAGA理事からお礼の挨拶と乾杯の発声があり、表彰式は有意義かつ楽しい雰囲気の中で幕が閉じられた。

(小川理事記)

—三沢地区表彰式—



JAAGA Award ceremony in Misawa Air Base. 29 people, including Lt. Gen. Saito, Maj. Gen. Kiyofuji and Col. Rothstein, attended the ceremony.

平成23年2月18日(金)、平成22年度三沢地区JAAGA表彰行事が空自三沢基地において実施された。表彰式及び懇親祝賀会は三沢基地隊員クラブおがわらにおいて開催され、空自から北部航空方面隊司令官齊藤治和空将、第3航空団司令兼三沢基地司令の清藤勝則空将補以下13名、米空軍から米軍三沢基地司令官のマイケル・ラスティーン大佐以下8名、三沢基地周辺協力者として三沢市防衛協会会長の山本昭三氏、三沢地域自衛隊退職者雇用協議会会長の戸栄司氏他2名、そしてJAAGAからは榎副会長以下4名のメンバーが出席し、総勢29名の参加者を得て実施された。

表彰式は、栗山善一2等空曹以下5名の北部航空音楽隊による日米国歌の演奏から始まった。榎副会

長は挨拶において、JAAGA表彰の目的を紹介するとともに、日米関係者及び基地周辺協力者によるJAAGAの活動への積極的な支援、協力に対するお礼の言葉を述べた後、日米二人の受賞者にそれぞれ表彰状と記念楯を授与し、その功績を称えた。ラスティーン大佐からの祝辞においては、日米二人の受賞者の功績を讃えるとともにJAAGAへの感謝の言葉が述べられ、このような相互理解のための活動の大切さを強調された。また清藤空将補からは、同じく日米受賞者へのお祝いの言葉とともに、三沢が唯一の日米共同使用の基地であり、地域の方々の協力もあって強い信頼関係が築かれており、日米友好のシンボルのような基地であるため、このような表彰は極めて意義深いとの祝辞があった。

表彰式後の懇親祝賀会においては、まず三沢市防衛協会会長の山本昭三氏により日米受賞者を心から祝福するとともに、日米の友好親善の促進を祈念して乾杯が行われた。その後、日米の受賞者から挨拶があり、パーチ空軍曹長は「草の根の交流が相互理解の大切な基盤になること」を強調され、織田空曹長は「支援してくれた方々に感謝し、今後ともいろいろな行事に参加して交流促進に貢献していきたい」との抱負を述べられた。最後に丸山JAAGA三沢支部長から流暢な英語でお礼の挨拶と乾杯の発声があり、平成22年度三沢地区JAAGA表彰行事は有意義かつ暖かい雰囲気の中で幕が閉じられた。

(小川理事記)

米空軍軍人の日光研修



First Day: Observatory of Kegon Fall in Nikko

平成22年11月1日から2日にかけて、第5空軍副司令官アンジェレラ少将夫妻、第5空軍兼在日米軍最先任上級曹長カイザー夫妻、第5空軍儀典班ガルシア大尉夫妻の6名が日光方面を研修した。本研修は宇都宮市在住のJAAGA個人賛助会員である高柳實氏の全面的なサポートによる第5回目の研修であり、JAAGAからは菊川、射場理事が同行した。

米軍車両で横田基地を出発した一行は、途中で高柳ご夫妻をはじめ今回支援をいただく方々から出迎えを受け、高柳昌喜氏（實氏の甥）と三浦日出夫氏（栃木県航空協会理事、防大4期）のご案内で日光へ。由緒ある金谷ホテルでの昼食の後、東照宮、三仏堂、二荒山神社を研修し、特に陽明門はじめ三猿、眠り猫、鳴龍などに深い感銘を受けた様子であった。二荒山神社では「巫女の舞」の後、アンジェレラ少将が代表して玉串奉てんを行い、全員で日本神道の拝礼を体験した。霧に煙る華嚴の滝とすばらしい紅葉を見て初日の研修を終了、宇都宮市内の宿舎に到着した。夜は、高柳ご夫妻、本研修の綿密な企画をして頂いた堀川典子様（高柳實氏のご息女）ご夫妻、高柳氏の奥様のお兄様の大橋氏、高柳昌喜氏ご夫妻、

三浦氏等とともに日光の話題、日本料理、日本酒を楽しみつつ大いに盛り上がった。

二日目は、秋晴れの下、高柳ご夫妻等とともに、益子焼窯元と日本酒蔵元の研修を行った。まずは、益子の老舗窯元である関澤窯を訪ね、当主関澤武氏とご長男による直々の指導で「ろくろ」、「絵付け」を体験、アンジェレラ少将はじめ全員が日本の伝統工芸に挑戦した。後日の出来上りを楽しみにしている様子であった。その後、関澤邸内にある関澤窯ミュージアム、酒樽を利用した茶室、数々の盆栽、登り窯を見学した。続いて、外池酒造を見学。日本酒の醸造工程の説明を受けた後、外池取締役ご夫妻のご案内により多種にわたる日本酒を試飲、全員大いに知識を深めるとともに日本酒を堪能した。昼食は山間のレストランにてお世話になった方々も一緒に、すき焼き、天ぷら、流しそうめんなどの日本食を満喫した。研修の終了にあたり、2週間後に日本を離れるアンジェレラ少将から心温まる多くのご配慮に対する謝辞があり、皆さんの見送りを受け、益子を後にした。

本研修は「母国を離れ日本の防衛のために汗を流

してくれる在日米国軍人に対する感謝の気持ちを表すとともに、研修を通じて日本の多くのものを知ってもらいたい」との高柳氏の熱意と好意により実施



Second Day: Sekizawa Kiln in Mashiko, Tochigi. Mr. Takeshi Sekizawa, sitting in the forward right, is a famous ceramic artist and the owner of the kiln.

されているものであるが、その思いが参加者全員に十分すぎるほど伝わり、心の奥底に残ったものと確信する。(菊川理事記)



Tonoike Sake Brewing Company in Mashiko. They tasted various kinds of Japanese sake with the guidance of Mr. Tonoike, sitting in the forward right.

横田基地司令主催のオープン・ハウス



JAAGA directors, Col. Feather and their wives at Base Commander's Open House in Yokota

平成22年12月5日(日)13時から14時半過ぎまで、米空軍第374空輸航空団司令兼横田基地司令オットー・フェザー大佐夫妻主催のオープン・ハウスが基地司令官舎で実施された。空自から入間基地司令、防空指揮群副司令等、周辺市町から首長等、多数の方々が参加されていた。JAAGAからは阪東、源理事が参加した。

フェザー大佐夫妻の出迎えを受け、和やかな雰囲気

気の中、基地主要幹部と招待者との歓談がはずんだ。会場では心尽くしの和食、洋食のご馳走、各種のドリンク、スイーツでのもてなしを受けた。第5空軍兼在日米軍最先任上級曹長カイザー夫妻も参加されており、11月の日光研修、日米下士官交換プログラム等、JAAGAの支援についてとても感謝しているとの話があった。

最後に、フェザー大佐から、「日本に来て7カ月という短い期間ではありますが、一生の友人と呼べる多くの人たちと会えることができました。クリスマスのシーズンは、家族、友人と親交を温め合う大事な時季でもあります。それぞれの任地に赴いて出会う人たちを私たちは家族、親戚と呼んでいます。そういった意味から、皆様と一緒に働き、このような行事で共に時間を過ごせることは、私たちの喜びと感じるところです。私たち夫婦、スタッフ共々から、メリー・クリスマス！皆様素晴らしい新年をお迎えください」との締め括りの挨拶があった。フェザー大佐夫妻を始めとする基地関係者の温かい心遣いが随所に感じられるオープン・ハウスであった。

(源理事記)

フィールド中将主催のオープン・ハウス



JAAGA members, including President Tsumagari and ex-President Totake, with Lt. Gen. Field at Christmas Party in his official residence

平成22年12月12日（日）16時半から、米軍横田基地ケニーコート内の司令官官舎において、在日米軍司令官兼第5空軍司令官バートン・フィールド中将夫妻主催のオープン・ハウスが開催された。航空自衛隊主要幹部、基地周辺市町首長、JAAGAメンバーが主として招待された。航空幕僚監部から長島航空幕僚副長、各部長等、府中基地から岩崎航空総隊司令官、森下航空支援集団司令官、入間基地から渡邊中部航空方面隊司令官、秦航空開発実験集団司令官がそれぞれご夫妻で参加された。JAAGAからは、遠竹前会長、津曲会長、阪東、高橋（健二）、山本（隆）、桃木、源理事他会員が参加した。随所にクリスマス・ツリー、オーナメント等が飾られ、クリスマス・ソングが演奏されてクリスマス・ムードが溢れる中、第5空軍司令部各部長等、横田基地関係者を交え終始和やかな雰囲気で開催が進んだ。

フィールド司令官から日本語で「本日は皆様に我が家にお越し頂き大変光栄に思います。どうも有難うございます」との挨拶があった後、「皆様とともにこのクリスマス・シーズンを過ごす機会を頂き、うれしく思っています。毎年この季節になると、素

晴らしい国、友人、家族に恵まれ幸福な人生を送ることが出来たことを当然のこととして受け止めるのではなく、そのことに感謝しながら生きていこうと思いを新たにしています。日本に来て2ヶ月半経ちますが、この間に頂いた日本の皆様からの沢山の温かい歓迎とお持て成しに心から感謝しています。今日は皆様をご招待し、そのご厚情に少しでもお返しをしたいということで、この会を催しました。

今年は日米安保改定50周年の素晴らしい年に当たっています。70年前に日本と米国の二つの国、国民がどのような状態にあったかを考え、今日の日米同盟の環境、状態が非常に緊密で、お互いを必要としている関係を見たときに、ヒューマン・スピリットが素晴らしいものであるということを感じますし、そして70年前に敵対していた国が今はこのような形で存在していることを考えると、世界中で起こっている様々な問題に対してもある程度の希望を抱くことが出来ると感じています」とのスピーチがあった。

司令官は「素晴らしい季節に皆様とともに希望を抱き、ヒューマン・スピリットの強さを祝福しつつ、日米両国、両国民の間の緊密な同盟に対して」と

乾杯の音頭を取られ、「どうぞ良いお年をお迎えください」と締めくくられた。最後に、クリスマス・ソングを米軍人が披露し、「We wish you a Merry

Christmas」を全員で合唱し、行事は終了となった。

(源理事記)

横田基地と近隣市町友好クラブ合同新年会開催



Kagamiwari, a sake barrel-opening ceremony, at Friendship Club's New Year's Party in Yokota

平成23年1月23日（日）午後6時から横田基地下士官クラブにおいて「Friendship Clubs' New Year's Party」と称して「横田基地と近隣市町友好クラブ合同新年会」が催され、JAAGAからは津曲会長、新井理事が参加した。また、航空自衛隊からは入間、府中、立川の基地司令等が招待された。友好クラブは、新たに昭島市も加わり、「羽村横田友好クラブ」、「福生横田交流クラブ」、「あきる野横田交流クラブ」、「瑞穂横田交流協会」、「青梅横田交流クラブ」、「昭島横田友好クラブ」、「武蔵村山横田友好クラブ」の7クラブに増え、新年会は一段と盛大なものになり、下士官クラブに溢れんばかりの参加者で賑わった。

儀仗隊による国旗掲揚、ボーカル・グループによるアカペラの日米両国歌斉唱で始められ、基地司令、7クラブ代表の羽村横田友好クラブ会長、来賓代表

の羽村市長の挨拶が行われた。横田基地司令フェザー大佐からは新年の挨拶とともに、近隣の人々の支援に対する感謝の表明と、最も強固な同盟関係である日米関係を更に強めていきたい旨の挨拶があった。特に、今年は航空総隊司令部が横田基地に移転することの紹介があり、またフェザー大佐の個人的な話として、クウェートにて勤務した折に、当時同様に派遣されていた空自の幹部と一緒に仕事をし、その中で最も親しくした仲間が本日の招待者である立川基地司令の第1補給処立川支処長半澤1佐です、と改めて紹介される等、日米の親密な関係を強調されていた。その後、鏡開き、乾杯、食事・歓談と続き、ボーカル・グループのパフォーマンス等があり会は大いに盛り上がり、最後に「手締め」が行われ新年会の幕が閉じられた。

(新井理事記)

第1号議案

平成22年度事業報告

(自平成22年4月1日～至平成23年3月31日)

第1 事業実績の概要及び会勢の現状

主要事業は、東日本大震災の発生により一部を中止したものの概ね計画どおり実施し、航空自衛隊と米空軍との相互理解及び友好親善の増進に寄与できた。

平成22年度末の会員総数は、348名（正会員242名、個人賛助会員49名、法人賛助会員48法人及び名誉会員9名）であり、年度当初会員359名から、個人賛助会員11名の減、法人賛助会員1法人の減、名誉会員1名の増となった。

第2 事業等の実施状況

1 日米隊員の激励等

(1) 日米共同訓練参加隊員の激励等

22. 5. 25、総隊司令官を訪問し、レッド・フラッグ・アラスカ参加部隊（7空団基幹）に対する激励の意をお伝えした。（織田理事、射場理事、原田理事）

23. 1. 25、総隊司令官を訪問し、コープ・ノース・グアム参加部隊（2、3空団基幹）に対する激励の意をお伝えした。（織田理事、源理事、射場理事）

(2) 日米隊員の表彰

23. 2. 4、那覇基地隊員クラブにおいて米空軍第18戦闘航空団ジェリー・レイニー上級曹長及び南西航空混成団司令部波木宏将1等空曹を当協会設立の目的に副う功績があったとして表彰した。

来賓：平田南混団司令、山田那覇基地司令、コンスタンティーン第18任務支援群司令、根路銘沖繩県防衛協会青年部会長他3名

JAAGA参加者：津曲会長、石津沖繩支部長、名富事務局長、小川理事、小川会員

23. 2. 10、入間基地入間インにおいて、米空軍第374空輸航空団ブライアン・A・カントレル空軍曹長、防空指揮群雲山充明准空尉、プログラム管理隊前田徳幸空曹長及び第4補給処小林広志空曹長を当協会設立の目的に副う功績があったとして表彰した。

来賓：國分入間基地司令、吉川第4補給処長、川崎プログラム管理隊司令、村山防空指揮群副司令、マーティス第374整備群司令、荻野入間航友会副会長他2名

JAAGA参加者：津曲会長、小川理事、源理事、戸田理事、金子理事

23. 2. 18、三沢基地隊員クラブにおいて、三沢情報運用センタークリストファー・バーチ空軍曹長及び北部防空管制群織田和哉空曹長を当協会設立の目

的に副う功績があったとして表彰した。

来賓：齋藤北空司令官、石野北空副司令官、清藤三沢基地司令、田中北警団司令、福原北防群司令、ラストイーン第35戦闘航空団司令、山本三沢市防衛協会会長他3名

JAAGA参加者：榎副会長、丸山三沢支部長、山本事務局長、小川理事

(3) 日米隊員の交流活動等激励

22. 9. 28、杉山空幕人事教育部長を訪問し、空自受入れ部隊に対する激励の意をお伝えした。（香川理事長、高橋理事、原田理事、井上理事）

・那覇基地：22. 10. 7～10. 15 米空軍から7名参加
・松島基地：23. 2. 14～2. 21 米空軍から6名参加
・小牧基地：23. 2. 16～2. 22 米空軍から8名参加

23. 2. 16、フィールド第5空軍司令官を訪問し、米軍受入れ部隊に対する激励の意をお伝えした。（香川理事長、山本(隆)理事、原田理事、井上理事）

・嘉手納基地：23. 2. 18～2. 25 空自から8名参加
・三沢基地：東日本大震災の発生により中止となった。
・横田基地：同上

2 米空軍軍人の日本研修等支援

(1) 米空軍軍人の日本文化研修支援

22. 11. 1～2、第5空軍副司令官アンジェレラ少将以下6名の日光等史跡研修を菊川理事、射場理事が支援した。

(2) 米空軍軍人の地域行事等支援

ア スペシャル・オリンピックスの支援

22. 5. 15、横田基地スペシャル・オリンピックスの開会式等に廣瀬理事長、阪東理事が参加し支援した。

22. 8. 28、三沢基地スペシャル・オリンピックスの開会式等に丸山三沢支部長、山本事務局長が参加し支援した。

22. 11. 6、嘉手納スペシャル・オリンピックスの開会式等に、石津沖繩支部長が参加し支援した。

イ 米空軍軍人及び家族のねぶた祭り参加支援

22. 8. 6、第35戦闘航空団司令以下35名のねぶた祭り参加を三沢支部（丸山支部長、山本事務局長各夫妻）が支援した。

3 JAAGAと航空自衛隊・米空軍との交流

(1) SPORTEX'10

ア SPORTEX'09-B（21年度繰越分）

22. 4. 29、多摩ヒルズにおいて、米軍、空自及び会員計104名（米軍28名【2名】、空自26名、会員50名【2名】）の参加を得て実施した。

*【 】内は、ボランティア参加で内数
イ SPORTEX'10-A

22. 10. 7、多摩ヒルズにおいて、米軍及び会員計79名（米軍23名【2名】、正会員47名【2名】、賛助会員9名）の参加を得て実施した。

*【 】内は、ボランティア参加で内数
ウ SPORTEX'10-B

23. 3. 21、東日本大震災の発生により中止した。

(2) 指揮官交代行事等への出席及び来日した米空軍関係者の接遇

22. 5. 6、ヒックス横田基地司令の送別会に阪東理事が参加した。

22. 5. 14、ヒックス横田基地司令の指揮権交代式（ヒックス大佐→フェザー大佐）に廣瀬理事長、新井理事、阪東理事が参加した。

22. 7. 17、スティルウェル三沢基地司令の送別会に丸山三沢支部長、山本事務局長が参加した。

22. 8. 31、ラストイーン三沢基地司令の着任行事に山本三沢支部事務局長が参加した。

22. 10. 19、横田基地においてライス第5空軍司令官に対する名誉会員委嘱式を津曲会長、阪東理事、高橋理事、源理事、桃木理事により実施した。

22. 10. 25、ライス在日米軍司令官兼第5空軍司令官の指揮官交代式（ライス中将→フィールド中将）に津曲会長、竹河内元会長、遠竹前会長、榎副会長、山本理事、阪東理事、高橋理事、源理事が参加した。

(3) 米空軍協会（AFA）総会への参加

22. 9. 6～17、津曲会長以下4名がAFA総会に参加するとともに太平洋空軍司令部及び名誉会員等を表敬訪問し日米親善の交流を深めた。

(4) 在日米空軍各基地との連携の強化

22. 7. 3、横田基地2010年米国独立記念祭に香川理事長、阪東理事、源理事が参加した。

22. 8. 22、横田基地日米友好祭2010に山本理事、阪東理事、桃木理事が参加した。

22. 9. 25、三沢基地2010エアフォースボールに丸山三沢支部長夫妻が参加した。

22. 12. 5、横田基地司令主催のオープン・ハウスに阪東理事、源理事が参加した。

22. 12. 8、横田基地広報部渉外主任阿部政男氏の日米合同送別会に阪東理事、新井理事、源理事、射場理事、桃木理事が参加した。

22. 12. 12、第5空軍司令官主催のオープン・ハウスに遠竹前会長、津曲会長、阪東理事、高橋理事、山本理事、源理事、桃木理事が参加した。

(5) 米空軍慶弔への対応

クリスマスカード65通を送付した。

(6) 関係団体との交流

ア 日米ネービー友好協会総会等への参加

22. 4. 23、JANAF A 総会後の懇親会（東京）に廣瀬理事長が参加した。

22. 11. 16、JANAF A 秋季懇親会（横須賀）に香川理事長夫妻が参加した。

イ 福生横田友好協会等との交流

23. 1. 23、横田基地近隣市町友好クラブ合同新年会に津曲会長、新井理事が参加した。

4 広報及び広報協力

(1) 日米要人等の講演

ア 空幕部長等の講演

未実施

イ 米要人等の講演

22. 5. 20、第5空軍副司令官アンジェレラ少将から「50年に亘る安全保障と協力態勢」と題する講演を頂いた。参加者は、正会員及び賛助会員並びに招待者約160名であった。

(2) 米軍基地等の研修

ア 正会員研修

22. 9. 15、JAAGA 正会員（団長：中司氏以下16名）の米軍横田基地研修を実施した。

イ 賛助会員研修

23. 3. 17～18、JAAGA 賛助会員（団長：石橋氏以下19名）の米軍三沢基地等研修を計画したが、実施直前に東日本大震災が発生し中止した。

(3) 日米安保等に関する広報活動

ア 講演会等への講師派遣等

要請がないため未実施

イ 米空軍に対する広報支援

要請がないため未実施

ウ 大学生等の米軍基地研修支援

要請がないため未実施

(4) 会報「JAAGA だより」の発行・配布

22. 6. 29、だより38号（発行部数：1250部）を発行・配布した。

22. 12. 14、だより39号（発行部数：1250部）を発行・配布した。

(5) 一般広報

ア 関係広報誌等への投稿、情報の提供等

イ インターネット・ホームページの運営

ウ パンフレットの増刷

5 総会等

22. 5. 20、総会：正会員64名（委任状150名）の出席を得て実施し、第1号議案から第5号議案まで原案どおりに承認された。

講演会：4(1)イのとおり

懇親会：182名（正会員71名【6】、賛助会員43名、招待者9名、空自17名、米側招待者28名【8】）の参加を得て実施した。

*【 】内は ご夫人同伴者数で外数

6 運営管理

(1) 会勢の拡大等

ア 会員の拡大

正会員：242名（年初会員数：242名）

（新規：19名、退会：19名）

個人賛助会員：49名（年初会員数：60名）

（新規：3名、退会：14名）

法人賛助会員：48法人（年初会員数：49法人）

（新規：2法人、退会：3法人）

イ 支部の活性化等の推進

支部活動の活性化を推進するとともに、横田支部（仮称）の設置について検討を実施した。

なお、横田支部（仮称）の設置に関しては、航空総隊司令部の横田移転後の状況推移等を見極めた上で再検討することとした。

(2) 組織基盤の整備等

顧問の委嘱要領に関する検討を実施した。

(3) 会員名簿の作成・配布

22.12.14、会員名簿を作成・配布した。

(4) 役員会及び理事会

ア 役員会

22.6.29、22.9.28、22.12.14、23.3.29の各日に実施した。

イ 理事会

22.4.20、22.5.25、22.7.27、22.10.26、22.11.30、23.1.25、23.2.22の各日に実施した。

(5) 15周年記念事業の準備

15周年記念事業準備委員会を設置して準備中のところ、東日本大震災の発生に伴う諸般の事情を考慮し、行事を中止することとした。

(6) 監査

23.4.13、22年度収支決算及びJAAGA事務備品の監査を実施した。

第2号議案

平成22年度決算報告

(単位：円)

収 入			支 出			
区 分	予 算 額	執 行 額	予 算 科 目	予 算 額	執 行 額	
前 年 度 繰 越	6,197,990	6,197,990	事 業 費	共同訓練激励費	600,000	450,992
年 会 費	3,778,000	4,264,005		表彰関係費	450,000	391,773
手 数 料		-23,080		友好親善行事費	970,000	697,976
利 息	1,000	1,226		広 報 費	1,350,000	1,198,231
寄 付 金	—	3,000		総 会 費	450,000	595,612
雑 収 入	—	0		小 計	3,820,000	3,334,584
				運 営 管 理 費	入 会 活 動 費	60,000
			名 簿 関 係 費		120,000	124,720
			役 員 会 運 営 費		230,000	217,825
			支 部 運 営 費		120,000	120,420
			事 務 所 運 営 費		170,000	120,000
			事 務 通 信 費		130,000	107,307
			小 計	830,000	725,030	
			予 備 費	200,000	12,124	
			支 出 計	4,850,000	4,071,739	
			翌 年 度 繰 越	5,126,990	6,371,402	
合 計	9,976,990	10,443,141	合 計	9,976,990	10,443,141	

第3号議案

平成23年度事業計画

(自平成23年4月1日～至平成24年3月31日)

第1 事業運営方針

各種事業を積極的かつ着実に推進するとともに、会勢の拡大等運営管理態勢の更なる充実を図る。

第2 実施事業等の概要

1 日米隊員の激励等

- (1) 日米共同訓練参加隊員の激励等
実施事項：日米共同訓練に参加する日米隊員の激励・慰問
対象訓練：レッド・フラッグ、コープ・ノース・グアム、コープ・エンジェル等
時期：日米共同訓練実施時
- (2) 日米隊員の表彰
表彰人員：三沢、横田、入間、府中、嘉手納、那覇等各基地日米隊員1名基準
実施基地：三沢、入間、那覇の各基地
時期：4／四半期
- (3) 日米隊員の交流活動等激励
実施事項：日米下士官相互部隊研修に参加する日米隊員の激励
時期：3／四～4／四半期

2 米空軍軍人の日本研修等支援

- (1) 米空軍軍人の日本文化研修支援
ア 米空軍軍人に対する日光等史跡研修支援
対象：米空軍軍人（夫妻等10名基準）
時期：3／四半期
イ 米空軍士官学校学生に対する研修支援
対象：防衛大学校へ留学中の米空軍士官学校学生（3名程度）
時期：対象学生の留学期間中（8月～12月予定）
- (2) 米空軍軍人の地域行事等支援
ア スペシャル・オリμπックスの支援
時期及び基地：2／四半期（三沢基地）
3／四半期（横田基地）
3／四半期（嘉手納基地）
イ 米空軍軍人及び家族のねぶた祭り参加支援
時期：平成23年8月

3 JAAGA と航空自衛隊・米空軍との交流

- (1) SPORTEX'11
ア SPORTEX'11-A
場所：多摩ヒルズ
参加者：会員及び米空軍軍人 約100名
時期：3／四半期
イ SPORTEX'11-B
場所：多摩ヒルズ
参加者：正会員、空自隊員及び米空軍軍人 約100名

時期：4／四半期

- (2) 指揮官交代行事等への出席及び来日した米空軍関係者の接遇
対象基地等：三沢、横田、嘉手納、都内
時期：都度
- (3) 米空軍協会（AFA）総会への参加
時期：平成23年9月
- (4) 在日米空軍各基地との連携の強化
対象基地：三沢、横田、嘉手納
実施事項：①各基地との緊密な調整、広報資料の提供等
②オープン・ハウス等各種基地行事への参加
- (5) 米空軍慶弔への対応
必要に応じて慶弔意を表すとともに、グリーティング・カードを送付する。
- (6) 関係団体との交流
ア 日米ネービー友好協会総会等への参加
イ 福生横田友好協会等との交流

4 広報及び広報協力

- (1) 講演
講師：航空幕僚監部 部長等
時期：4／四半期
対象：正会員及び賛助会員
- (2) 米軍基地等の研修
実施事項：正会員及び賛助会員の米軍基地等における装備品、施設等の研修及び懇談・激励
研修先基地及び時期：正会員及び賛助会員：横田基地、2／四半期
賛助会員：嘉手納基地等、4／四半期
- (3) 日米安保等に関する広報活動
ア 講演会等への講師派遣等
実施事項：部外者、学生等を対象とする講演会等に、会から講師を派遣又は米軍要人等の講師の派遣斡旋
実施要領：主催者側の計画（日時、場所、経費、その他）による。
イ 米空軍に対する広報支援
実施事項：米空軍が準備する広報記事を「JAAGAだより」に掲載（紙面の提供）
実施要領：米空軍（横田基地広報部）との調整による。
ウ 大学生等の米軍基地研修支援
実施事項：主任教授等を通じた大学生等に対する米軍基地研修の紹介と研修支援
実施要領：研修者の希望に応じ、米空軍とその

第4号議案

平成23年度予算

(単位：円)

収 入		支 出		
区 分	予 算 額	予 算 科 目	予 算 額	
前 年 度 繰 越	6,371,402	事 業 費	共同訓練激励費	600,000
年 会 費	3,778,000		表彰関係費	450,000
利 息	1,000		友好親善行事費	930,000
寄 付 金	—		広 報 費	1,350,000
雑 収 入	—		総 会 費	50,000
		小 計	3,380,000	
		運 営 管 理 費	入 会 活 動 費	60,000
			名 簿 関 係 費	120,000
			役 員 会 運 営 費	230,000
			支 部 運 営 費	120,000
			事 務 所 運 営 費	170,000
			事 務 通 信 費	130,000
		小 計	830,000	
		20周年行事積立金	600,000	
		予 備 費	200,000	
		支 出 計	5,010,000	
		翌年度繰越	5,140,402	
合 計	10,150,402	合 計	10,150,402	

第5号議案

役 員 の 選 任

職 名	氏 名		
会 長	津曲義光		
副 会 長	四ッ家邦紀、榎 利美、吉田 正(新)		
理 事	理 事 長	香川清治(再)	
	副 理 事 長	永岩俊道	
	企 画	堀 好成(再)、笠原 久、織田邦男、戸田友敬、上田完二(新)、飯田雅典(新)	
	総 務	小川剛義、鈴木直人(再)、野田耕平(再)、射場義彦(再)、永田久雄、奥村芳樹(新)	
	渉 外	菊川忠継、阪東政詮(再)、新井洋一(再)、辻 章嗣(再)、桃木正幸、宮脇俊幸(新)	
	会 員	石渡幹生(再)、松田和彦(再)、美馬 博(再)、金子康輔(新)	
	広 報	源外志明、高橋健才(再)、古畑 徹(再)、山本康正(新)	
	財 務	藤井泰司、田中和之(再)、池田 勝(新)	
理 事	阪東政詮(兼)(横田)、高橋健二(再)(横田)、山本隆之(再)(渉外)、安宅耕一(再)(企画)、岡本秀夫(再)(総務)、鬼塚恒久(会員)、原田千敏(再)(広報)、双石芳則(再)(広報)		
監 事	北村善信、稲葉憲一		
支 部 役 員	支 部 長	丸山 泰(三沢)(再)	石津 靖(沖縄)
	支 部 事 務 局 長	山本親男(三沢)	名富忠夫(沖縄)

注：再は再任、新は新任、兼は兼務

【退任】 副会長：小田邦博

理 事：石黒正昭、井上 勝

新入会員紹介

1 正会員

氏名	住所	氏名	住所
宇都隆史	東京都千代田区	谷野淳一	埼玉県春日部市
飯田雅典	茨城県守谷市	外蘭健一朗	東京都東久留米市
潮匡人	東京都荒川区	豊田肇	埼玉県入間市
山川龍夫	神奈川県横浜市	稲屋博志	埼玉県飯能市
奥村芳樹	東京都港区		

2 個人賛助会員

氏名	住所
上地光士	東京都渋谷区

会員募集

今期は関係各位のご努力で正会員9名、個人賛助会員1名、合計10名の入会を得ることができました。会勢拡張目標を正会員300名、個人賛助会員50名、法人賛助会員50社と定め精力的に活動しておりますが、正会員数が239名(23.4.15現在)と目標にはるかに至っておりません。

今後とも、会員の皆様の勧誘、推薦、情報提供に関するご協力、ご支援を是非とも宜しくお願い致します。なお、個人会員の入会につきましては、次のとおりです。

推薦若しくは情報提供を頂いた方には直接会員担当係から連絡させていただきます。

【入会資格】

正会員：航空自衛隊のOB

個人賛助会員：航空自衛隊のOB以外の方で、正会員3名の推薦が必要です。

【連絡先】

○郵便 〒162-0842 新宿区市谷砂土原町1-2-34 KSKビル3F
日米エアフォース友好協会 会員担当 行

○(会社)メール、電話

石渡 幹生：m-ishi@shimadzu.co.jp 03-3219-5638

松田 和彦：kazuhiko_matsuda@mhi.co.jp 03-6716-4433

美馬 博：h-mima@zp.jp.nec.com 03-3353-9720

金子 康輔：kkaneko@mpcnet.co.jp 03-5531-8061

編集後記

◇3月11日に発生した東日本大震災において、米国は発災以来膨大な人的、物的支援を実施してきました。名付けて「トモダチ作戦」。震災翌日に始まった活動は3月20日頃には人員約18,000人、航空機約140機、艦艇約15隻までに膨らみました。しかし、米国からの支援はこのような作戦活動に限らず、在日米軍基地の軍人、家族等による活発なボランティア活動があったことも忘れてはならないと思います。たとえば、米軍三沢基地では震災後ただちに米国赤十字三沢支部に軍人、民間人及びその家族などが集まり、支援物資の募集や分配、さらには三沢、八戸近郊での清掃活動などに活躍しました。米国軍人とその家族の公私にわたる活動と友好精神に対し、この場を借りて改めて感謝したいと思います。

◇今年度、JAAGAは創立15周年を迎えました。当初7月に記念行事を計画しておりましたが、震災に伴う諸般の事情に鑑み開催を見送ることになりました。なお、記念行事の中で予定していた懇親会や表彰式については別途計画することが検討されています。(編集子)